



## 森の奥のイメージ

---

深い森の奥に足を運ぶと、底まで透けて見える綺麗な湖がある。

その湖底には濃い緑色のコケが生えていて、その上を銀の体色の魚が走っていた。

音は力強い鳥の声が遠くから聞こえるのみ。

太陽の光を遮るのは木々の葉と枝。

時折、遠くからふく風が葉を揺さぶる。

それと同時に、光が分散し、水面に乱反射した。

季節は初夏。

空気は澄み切っている。

湖には少し揺らぎがあるのみで、ほとんど静止していた。

この森は広大で、今ある湖の場所の先の遙か奥まで続いているようだった。

奥の奥の奥まで木々は隙間無く居場所を奪い合うのだ。

落雷に身を焦がされるまでは、木はその各々の場所で精一杯生きるのだろう。

一つの木があれば、そこには様々な鳥が住み着き、様々な虫が食事をする。

命は繋がっている。